

リモートセンシング、発生予察システム による作物病害防除

小林 隆 准教授 KOBAYASHI, Takashi



キーワード：ドローン、発生予察、IPM, AI

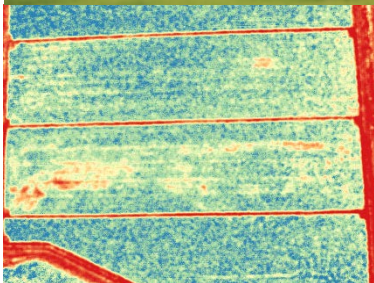
専門分野：植物病理学

連絡先Email：tkoba@tds1.tr.yamagata-u.ac.jp

研究内容

化学農薬を続けて使用すると、薬剤に対して耐性を示す病原菌が出現することがあります。より持続的な農業生産をめざすためには、化学農薬に過度に依存した防除体系を改めていく必要があります。

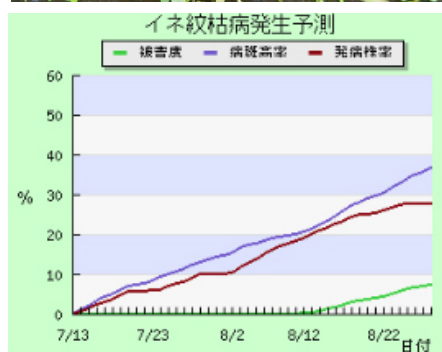
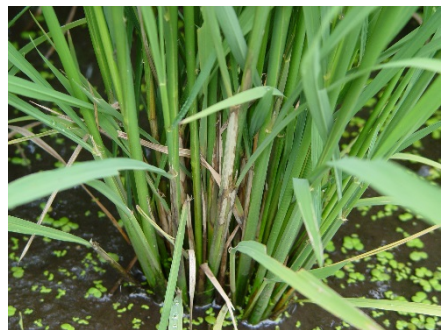
総合的病害虫・雑草管理（IPM：Integrated Pest Management）とは、病害虫の発生状況に応じて、様々な防除方法を適切に組み合わせ、環境への負荷を低減しつつ、病害虫の発生を抑制する防除技術です。IPMを確実に実施するには、ドローンやAIによる病害発生状況の評価や気象データによる病害発生予測により、適切な時期に必要な最小限の防除を行うことが重要となります。



ドローンによるイネいもち病の被害 度評価

G/R比が低いほど（赤いほど）葉いもち被害度が大きいことを示す。

G/R：G（グリーン）とR（レッド）の比演算値。



イネ紋枯病（上）とイネ紋枯病発生 予察システムBLIGHTAS（下）